

標記研究会 WG7「省資源・省エネ活動へのMFCAのお役立ち」が、以下の通り開催されました。

◇日時:2015年2月10日(火)14時~17時

◇場所:法政大学 市ヶ谷キャンパス ポアソナードタワー 25階セミナー室

◇参加者:合計29名

◇スピーカー:

- ・ 法政大学准教授 北田皓嗣氏(座長、まとめ役)
- ・ 神戸大学大学院教授 國部克彦氏(あいさつ)
- ・ FMIC 下垣彰氏(話題提供と課題提起)

◇課題提起と討議の概要(FMIC 下垣氏)

提言:省資源・省エネ活動を変革させよう

- ・ 省資源・省エネ活動を投資として経営貢献し、そのために自ら狙いを持ち/自ら掘り起こす活動に変える
- ・ 変革の3条件
 - ① 取り組み方:効率的な省資源・省エネ推進戦略の策定し実践する
 - ② 人材育成:ロスを見ぬく Mottainai 改善の眼力を磨く人を育てる
 - ③ 仕掛け:新たな取り組み方を組織に作る(組織を動かす)
- ・ MFCA の活用(お役立ち)とは
 分析手法 MFCA:②の Mottainai 改善の眼力を磨くためのマテリアル、エネルギーのロス分析の手法
 管理会計 MFCA:③の仕掛けをするため、省資源、省エネの経営インパクト、収益貢献の可能性を経営者に見せ、組織を動かす道具として用いる
- ・ 討議:見える化するというコトの意義、何を見える化すべきか等について、参加者全体で、討議した

◇実態調査

省資源・省エネのマネジメントについて参加者でアンケートを取った。その結果を図に示す。

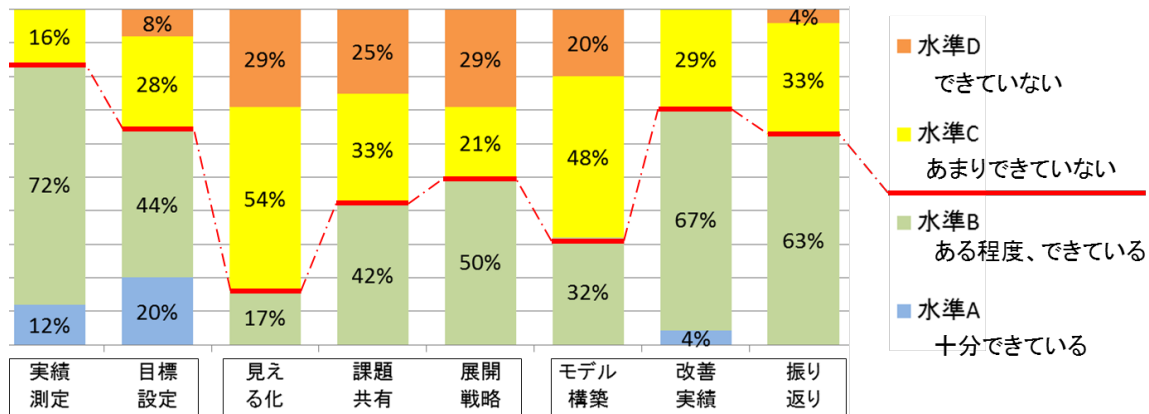


図:省エネ省資源マネジメントの実態調査より(回答者:25名、内17名がWG7参加者)

- ・ 多くの企業の省エネ、省資源の活動は、マテリアルやエネルギーのフローやロスの見える化が不十分なまま、見えている課題だけで戦略を設定、展開している。

- ・ それでは経営に貢献できるほどの効果を生み出せない、もしくは活動への投資が成果を上回る(投資として損)ことになりかねない。

次回は、4月9日(木)に開催予定です。